

2008年3月期  
第1四半期決算説明会

2007年8月2日  
ヤマハ株式会社

# 2008/3期 1Q決算の概要



- 売上高は、対前年同期 6.7%(85億円)、対前回予想 3.3%(44億円)の増収。  
為替影響を除いた実質ベースでは、ほぼ前回予想並みの対前年同期 2.8%(36億円)の増収。
- 営業利益は、対前年同期 8.0%(6億円)、対前回予想 21.2%(13億円)の増益。  
「The Sound Company」領域の楽器、AV・IT、半導体では、対前回予想増益(56億円→72億円)。ほぼ前年同期並み  
為替影響は対前回予想+11億円、対前年同期+20億円
- ヤマハ発動機株式の一部売却に伴う持分法投資利益の減少で、経常利益は対前年同期減益。当期利益は売却益の発生で対前年同期増益
- 1Q末在庫は、前年同期、前回予想に対し増加。  
為替影響を除けば、楽器完成品は、ほぼ前回予想並みの水準。  
仕掛品/材料が増加。一部海外工場での生産遅れと金属材料高騰による評価増が主因

# 2008/3期 1Q業績概要



- ▶ 前回予想(5/23)および前年同期に対し増収営業増益  
 ヤマハ発動機の持分法適用除外により、経常利益は対前年同期減益  
 当期利益はヤマハ発動機株式売却益の発生で対前年同期増益

(億円)

	07/3 (1Q) 実績	08/3 (1Q) 実績	前年同期比	前回予想	前回予想比
売上高	1,267	1,352	+ 6.7%	1,308	+ 3.3%
営業利益	67	73	+ 8.0%	60	+ 21.2%
経常利益	127	75	▲40.8%	52	+ 44.3%
当期利益	100	232	+131.9%	210	+ 10.7%

持分法損益                      64                      0                      0

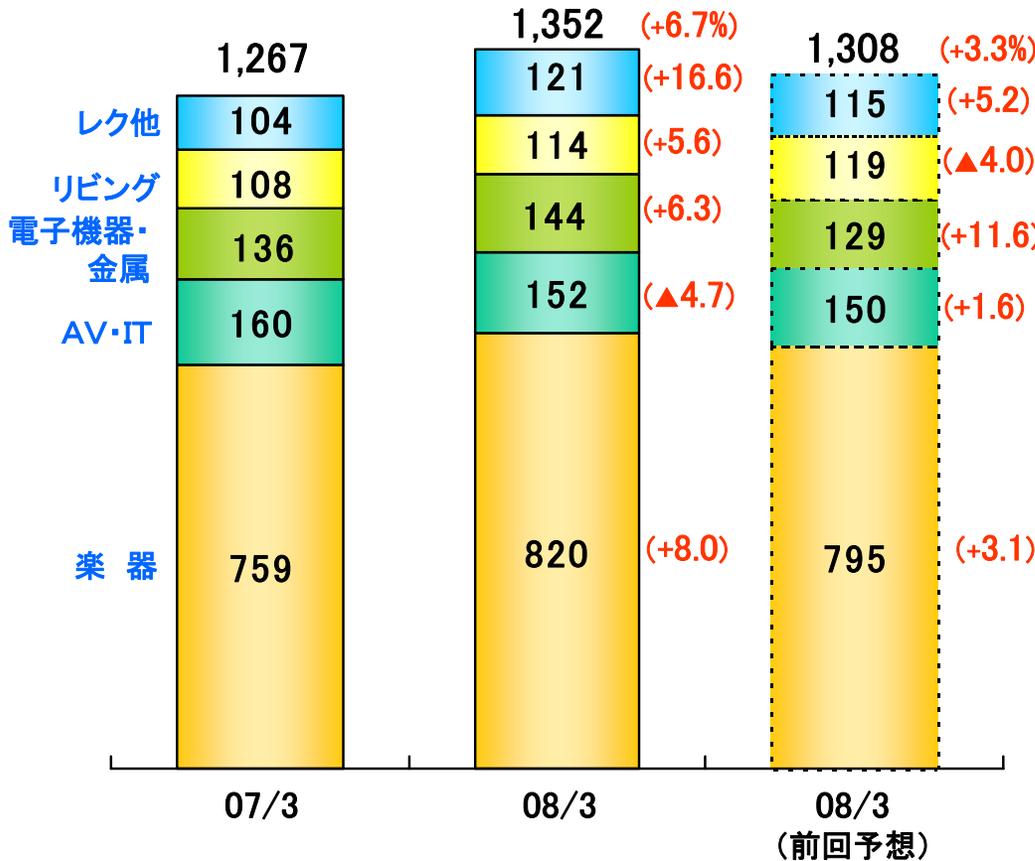
為替レート

売上高	US\$	115	121	115
	EUR	144	163	148
利益	US\$	115	120	115
	EUR	139	156	148

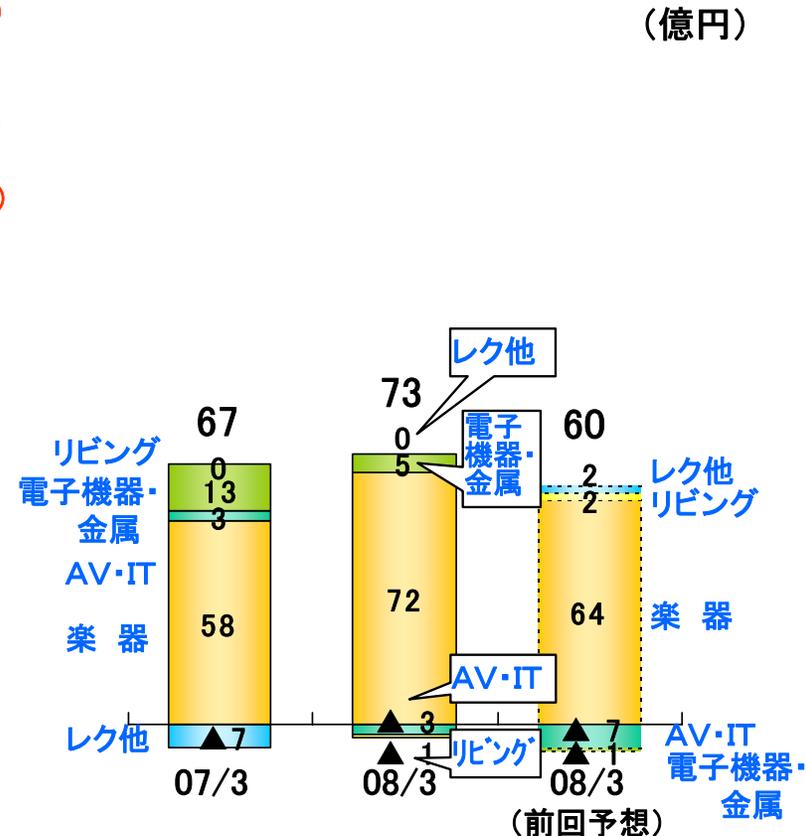
# 2008/3期 1Q事業別業績



## 売上高



## 営業利益



( )内は前年同期比  
または  
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は+49億円  
(楽器+38億円、AV・IT+11億円)  
また、前回予想との比較では+41億円  
(楽器+32億円、AV・IT+9億円)

前年同期との比較での為替影響は+20億円  
(楽器+19億円、AV・IT+1億円)  
また、前回予想との比較では+11億円  
(楽器+12億円、AV・IT▲1億円)

# 2008/3期 通期業績予想



➤ 通期業績は、EURを148円/€から155円/€へ見直し、前回予想(5/23)に対し、増収増益を予想

(億円)

	07/3 実績	08/3 予想	前年同期比	前回予想	前回予想比
売上高	5,504	5,570	+ 1.2%	5,510	+ 1.1%
営業利益	277	320	+ 15.5%	300	+ 6.7%
経常利益	426	300	▲29.6%	270	+ 11.1%
当期利益	279	355	+27.2%	325	+ 9.2%
持分法損益	178	0		0	

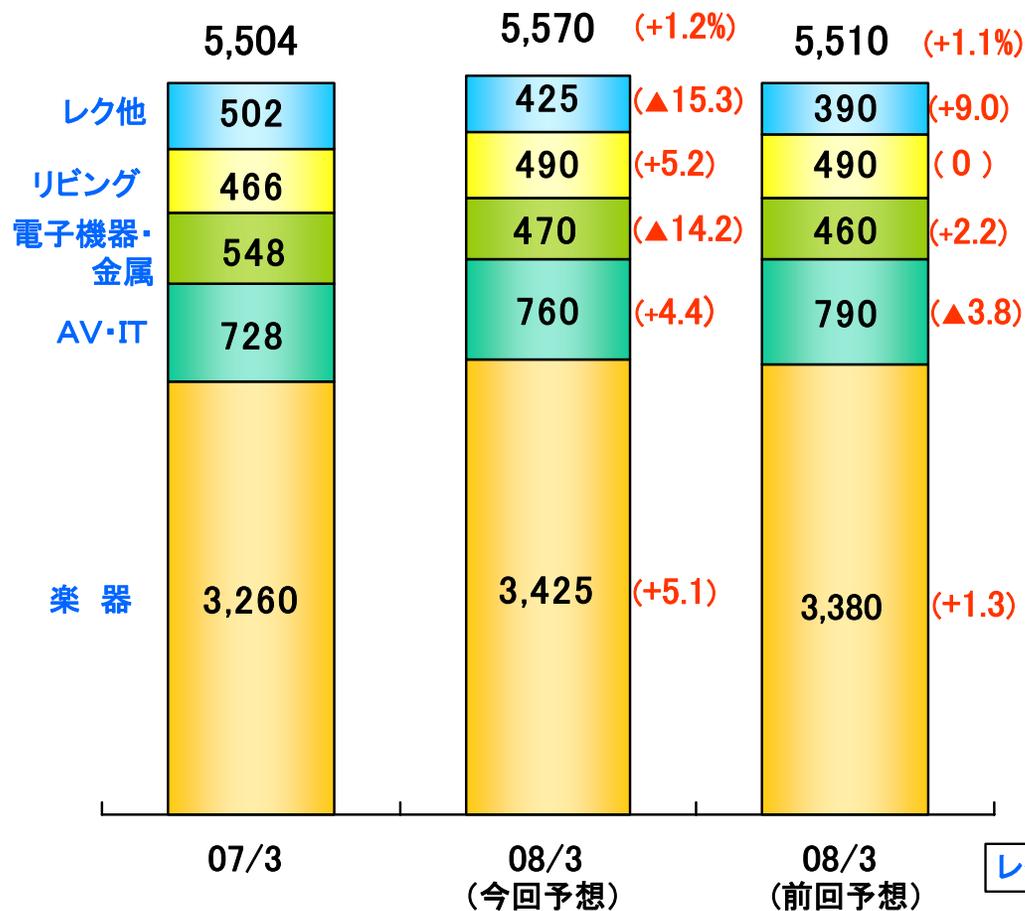
為替レート

売上高	US\$	117	116	115
	EUR	150	157	148
利益	US\$	117	116	115
	EUR	144	155	148

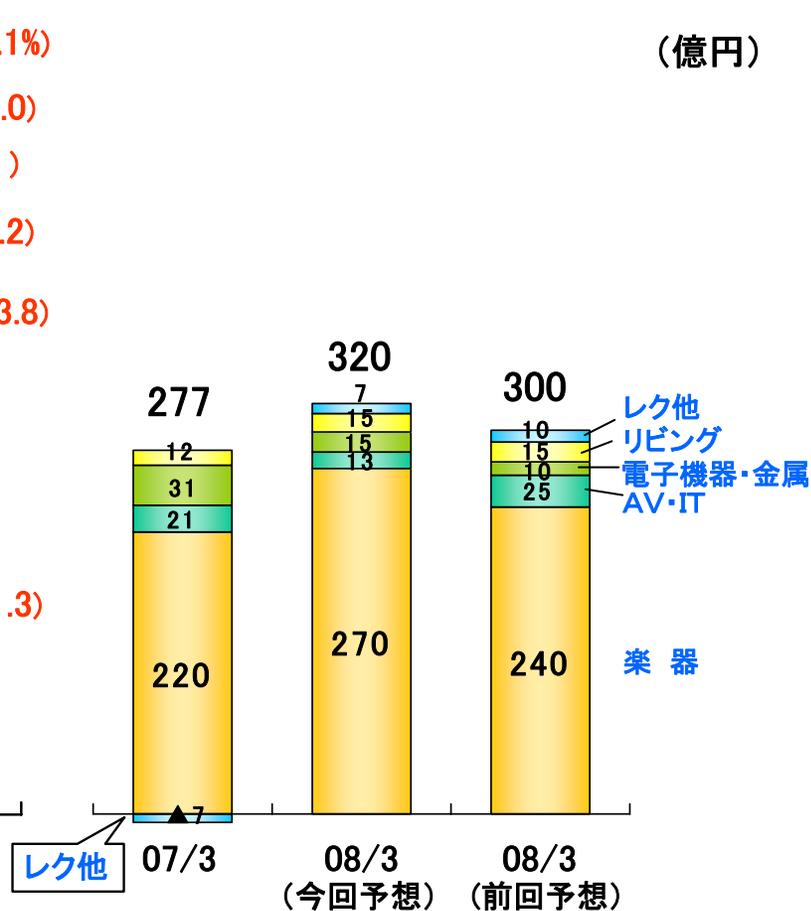
# 2008/3期 通期事業別業績予想



## 売上高



## 営業利益



( )内は前期比  
または  
前回予想比

前期との比較での為替影響は+48億円  
(楽器+36億円、AV・IT+11億円)  
また、前回予想との比較では+93億円  
(楽器+69億円、AV・IT+24億円)

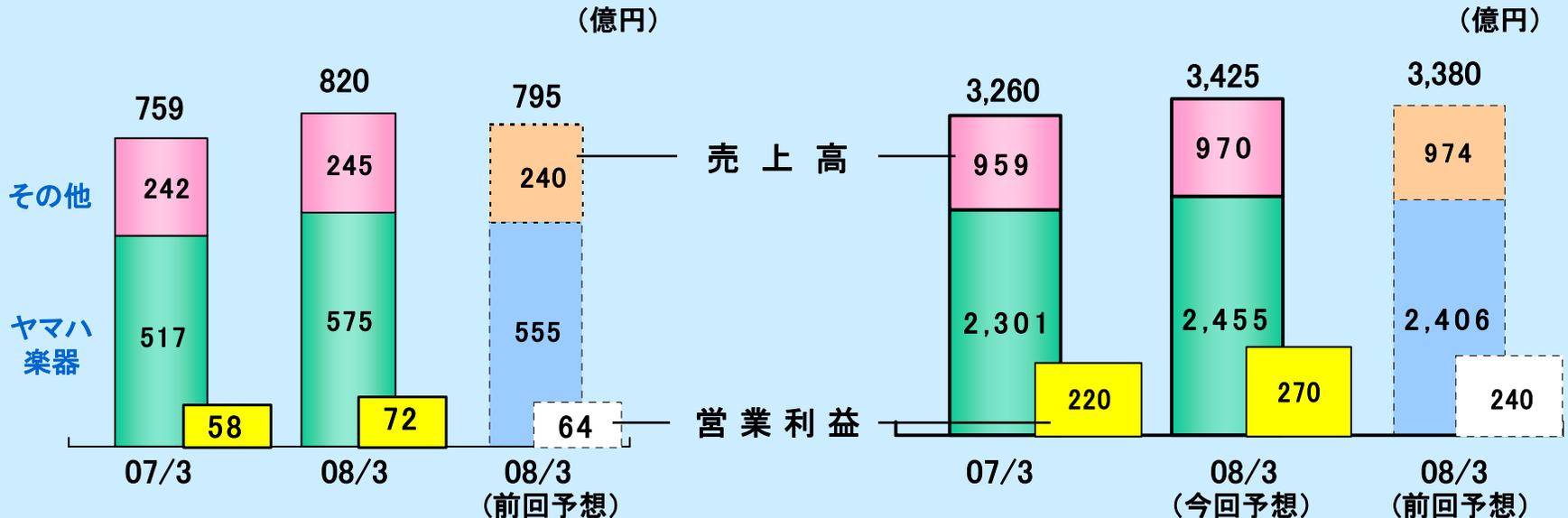
前期との比較での為替影響は+51億円  
(楽器+41億円、AV・IT+9億円)  
また、前回予想との比較では+35億円  
(楽器+32億円、AV・IT+2億円)

## 1Qの状況

- ・ 為替影響を除いた1Qの実質売上高は前年同期比3.0%の増収となったが、前回予想に対しては微減収。韓国、中国、中南米は好調継続。アメリカは前年同期を上回るものの、期待値を下回った
- ・ 商品別にはピアノ、電子楽器、PA機器が対前年同期、対前回予想増収

## 通期の予想と重点施策

- ・ 中核事業として、一層の収益力強化
- ・ 年末商戦に合せた新商品の確実な市場導入
- ・ CAビジネス強化拡大
- ・ 米国市場での挽回、国内は市場変化への対応強化
- ・ コスト競争力の強化(杭州ヤマハ、インドネシア、ピアノ国内拠点統合)
- ・ 新興市場(中国、ロシア、東欧等)での拡販

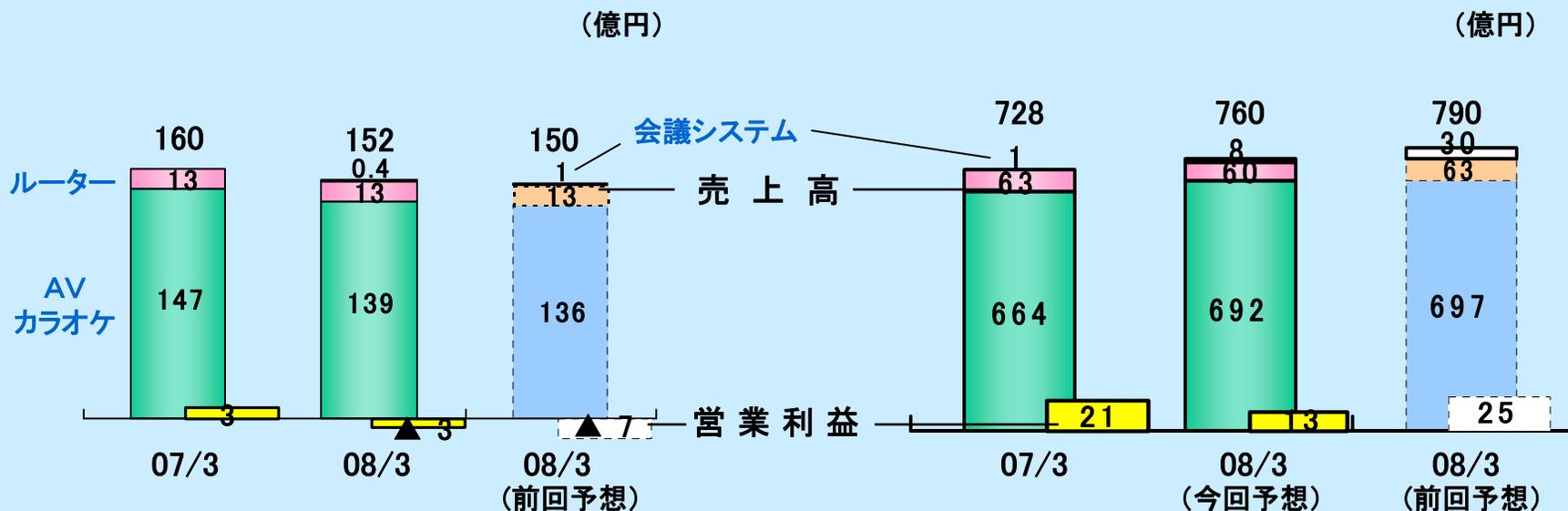


## 1Qの状況

- ・ 為替影響を除いた1Q実質売上高は、対前年同期、対前回予想とも減収。カラオケ機器は対前年同期半減
- ・ YSPは、流通在庫調整により対前年同期微減の13億円

## 通期の予想と重点施策

- ・ 会議システム販路開拓遅れ等に合せ、通期目標を下方修正
- ・ 市場の変化に合せたAVビジネス構築
  - ・ 新商品も含めたフロントサ라운드商品の強化、拡大
  - ・ 中高級を中心に2chHiFi拡販
  - ・ 新ジャンル商品の拡販
- ・ 品番見直しを含めた製造原価の低減

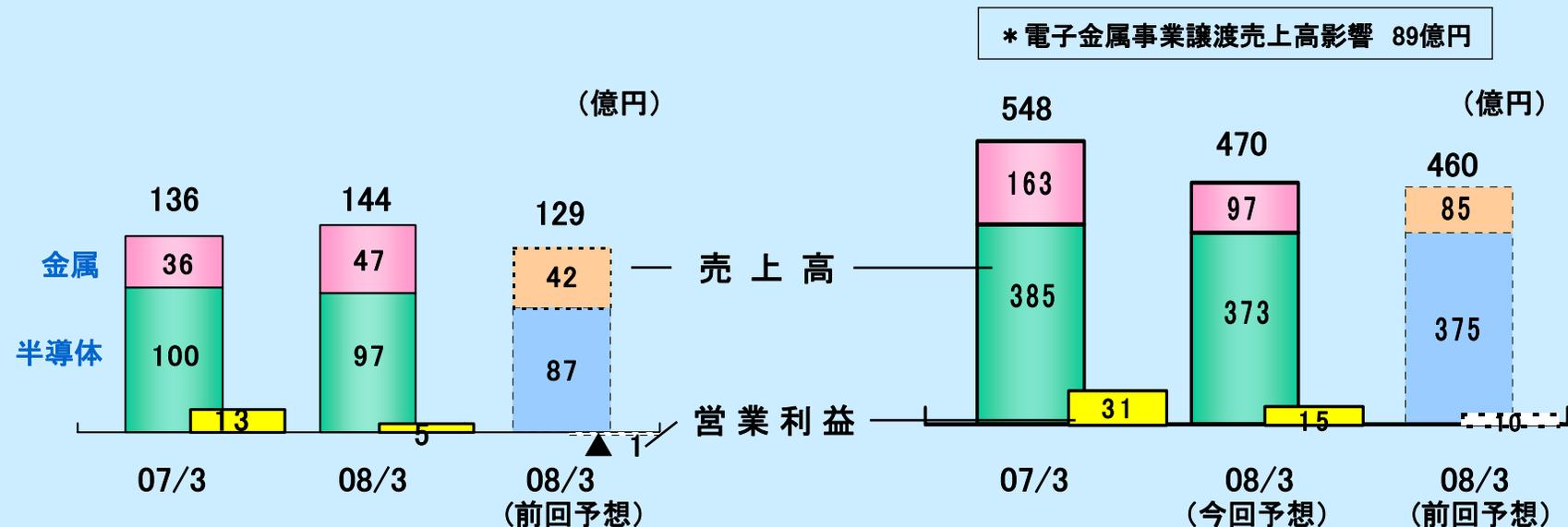


## 1Qの状況

- ・1Q業績は、前回予想に対しては増収増益となったものの、対前年同期では営業益半減
- ・携帯電話用音源LSI需要は、一段の減少。前回予想との比較では数量は予想並みだが、ミックスの改善で増収
- ・デジタルアンプは薄型TV、携帯電話向け等出荷拡大
- ・電子金属は、材料価格の上昇に伴う価格転嫁により対前回予想増収増益

## 通期の予想と重点施策

- ・付加価値の高い携帯電話用音源LSIへのシフトによる売上確保
- ・アミューズメント、デジタルアンプなどの拡販
- ・携帯電話メーカーへのシリコンマイクサンプル出荷継続
- ・電子金属は、ニッケル価格下落影響あるものの、製造原価低減と歩留まり向上により、利益確保を目指す。9月30日での事業譲渡に向けた準備作業推進

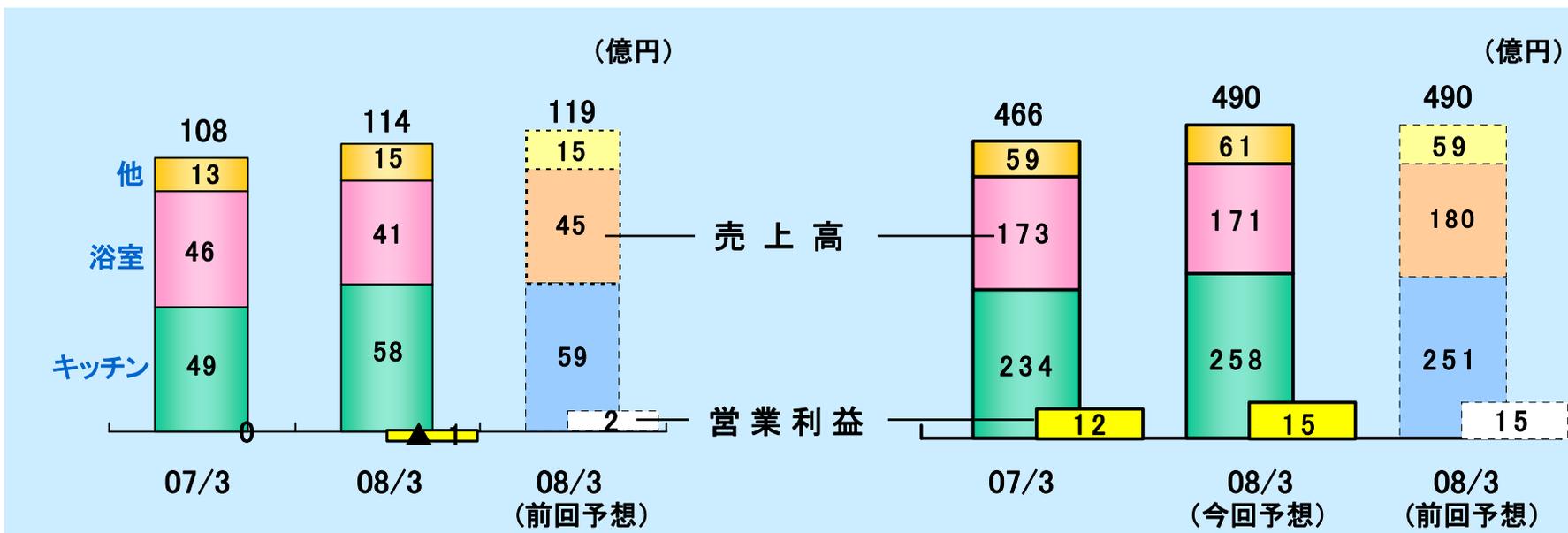


## 1Qの状況

- ・ 1Q売上高は、対前回予想減収。営業赤字となった
- ・ キッチン・浴室は引続き好調維持するも、単価はダウン傾向  
浴室は、価格競争激化による低価格化の進行で、前年同期、前回予想とも未達

## 通期の予想と重点施策

- ・ 通期では前回予想並みの売上、利益確保を目指す
- ・ 人造大理石、サウンドシャワー等を軸に、差別化商品の継続的な市場導入
- ・ リフォームビジネス対応強化
- ・ 工程改善と調達力強化による製造コストダウンの推進



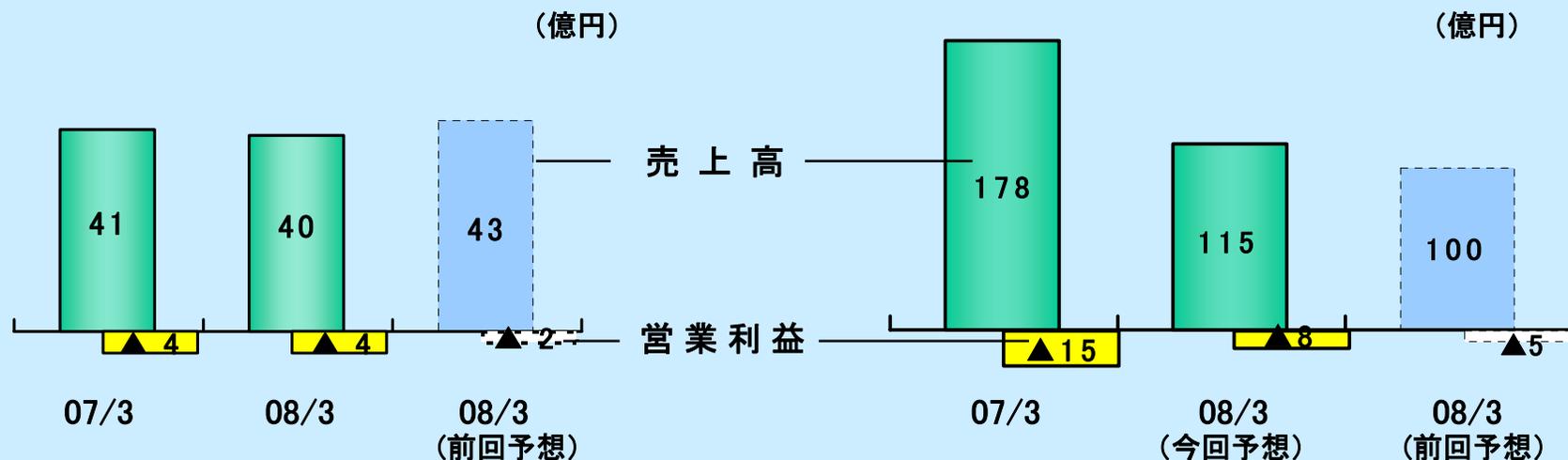
## 1Qの状況

- ・ 1Q売上高は対前回予想減収減益
- ・ 施設ごとには「つま恋」が対前年増収となるものの、「キロロ」、「はいむるぶし」が減収

## 通期の予想と重点施策

- ・ 4施設の譲渡日が当初予定の7/31から10/1へ変更となったことにより、対前回予想増収の計画。これによる営業益影響軽微
- ・ 引続き、集客の確保と経費合理化により、損失幅圧縮を目指す

\* 4施設事業譲渡売上高影響 62億円



# その他事業



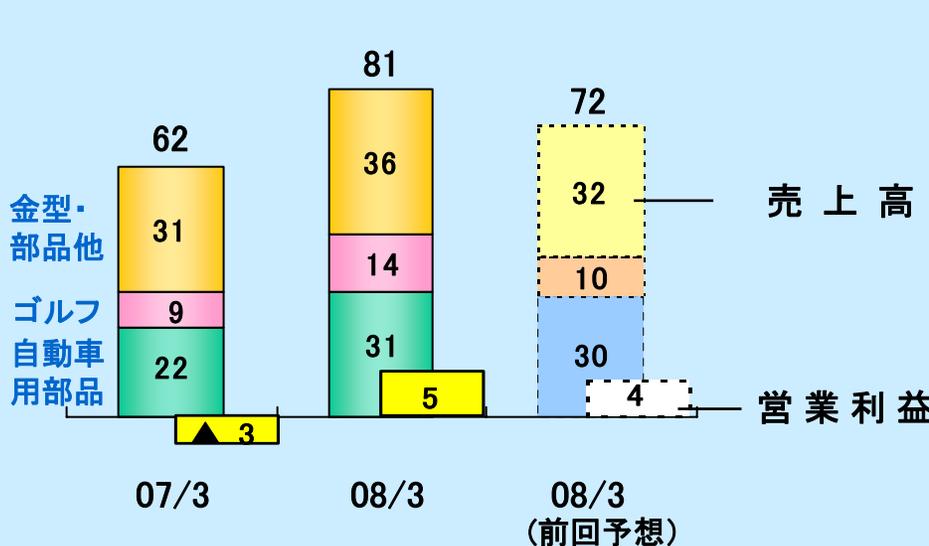
## 1Qの状況

- ・ 対前年同期増収増益
- ・ 金型・部品事業は、Mg、PI 部品とも増産。一方、金型、FA が出荷減少
- ・ 自動車用内装部品は増産と歩留り改善で、1Q営業黒字化
- ・ ゴルフは国内外とも好調継続

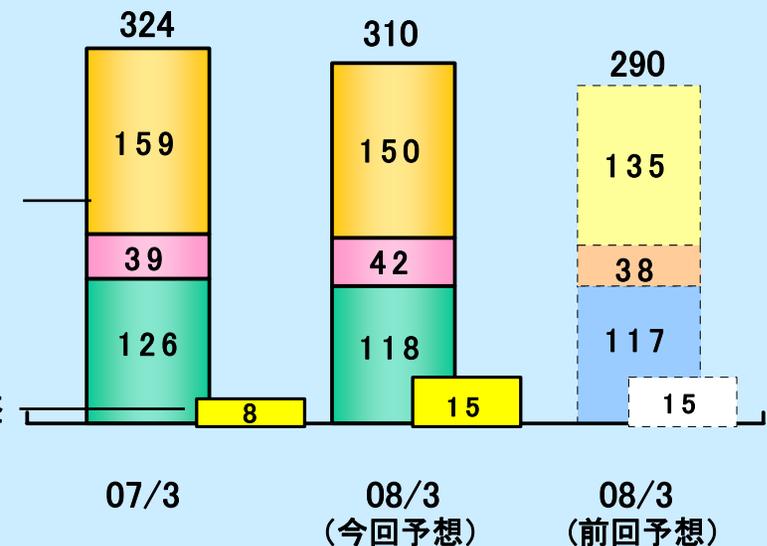
## 通期の予想と重点施策

- ・ 自動車用内装部品、金型・部品とも、引き続き製造原価低減と歩留まり改善に注力
- ・ 自動車用内装部品は次期モデルのスムーズな生産立上準備
- ・ ゴルフは引続き、認知度向上に注力

(億円)



(億円)



# 2008/3期 1Q営業外損益、特別損益



	07/3 (1Q)実績	08/3 (1Q)実績	08/3 (1Q)前回予想
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
持分法利益	64	0	0
金融収支	4	9	2
その他	▲ 9	▲ 7	▲ 10
計	+ 59	+ 2	▲ 8
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	1	▲ 1	0
その他	0	279	278
計	+ 1	+ 278	+ 278
<b>法人税他</b>			
法人税等	26	119	118
少数株主持分	1	2	2
計	27	121	120

受取配当金 8

ヤマハ発動機  
株式売却益 278

ヤマハ発動機  
株式売却益 278

# 2008/3期 通期営業外損益/特別損益

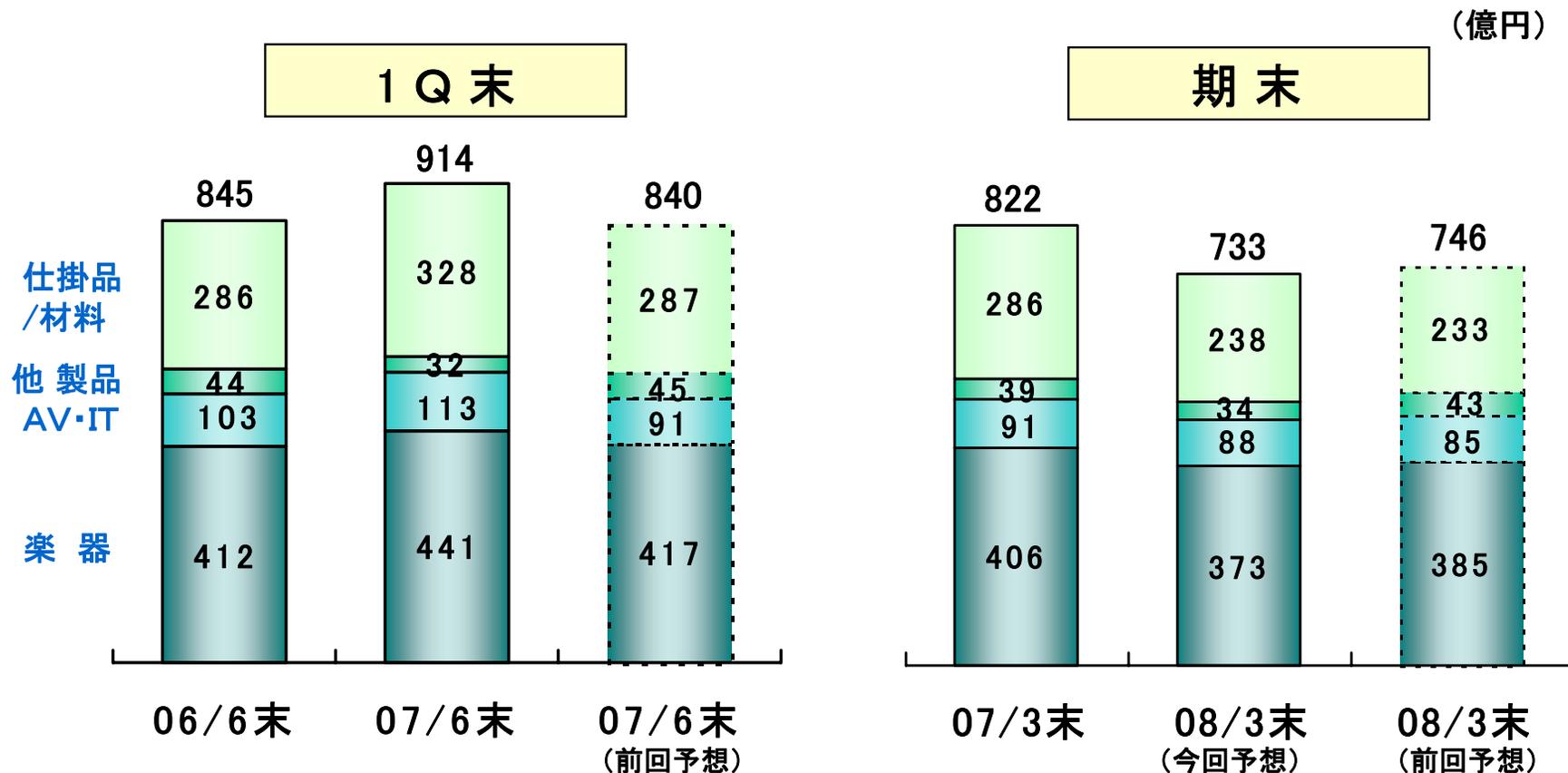


	07/3 実績	08/3 (今回予想)	08/3 (前回予想)
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
持分法利益	178	0	0
金融収支	1	24 <small>受取配当金 27</small>	16 <small>受取配当金 25</small>
その他	▲ 30	▲ 44	▲ 46
計	+ 149	▲ 20	▲ 30
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	▲ 11	▲ 8	▲ 7
その他	▲ 84	298 <small>ヤマハ発動機 株式売却益 278</small>	305 <small>ヤマハ発動機 株式売却益 278</small>
計	▲ 95	+ 290	+ 298
<b>法人税他</b>			
法人税等	47	229	235
少数株主持分	5	6	8
計	52	235	243

# 棚卸資産



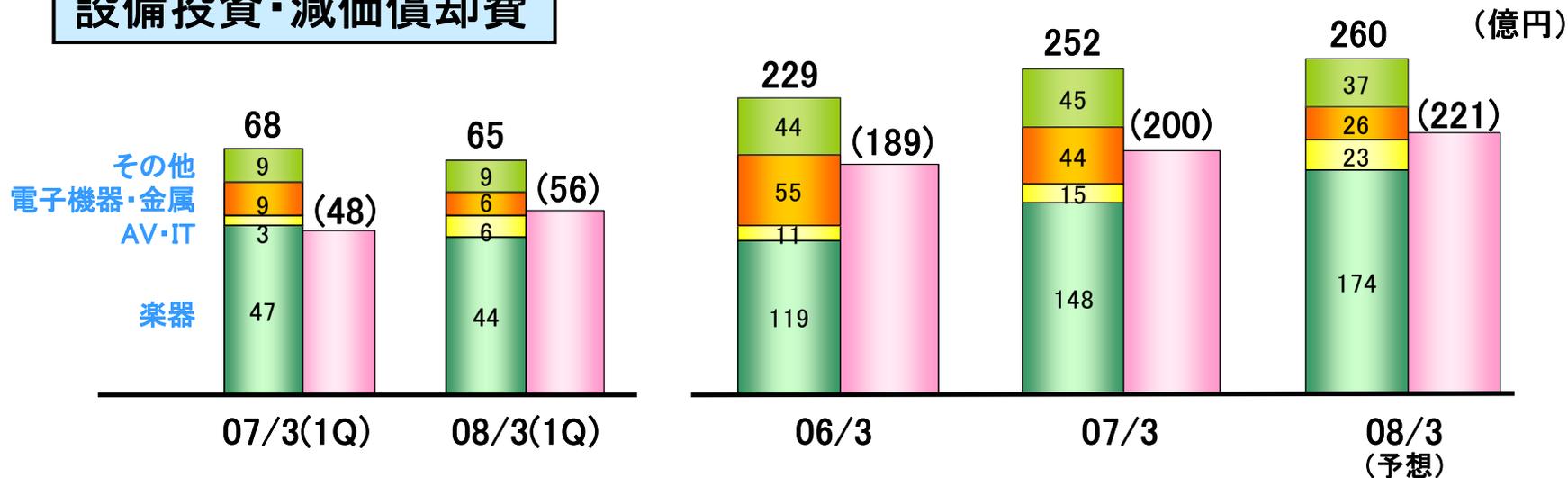
➤1Q末在庫は前回予想に対し増加。仕掛品/材料が増加  
 為替影響を除けば楽器完成品在庫はほぼ適正水準。AV・ITは若干重い  
 3月末では、前回予想並みを目指す



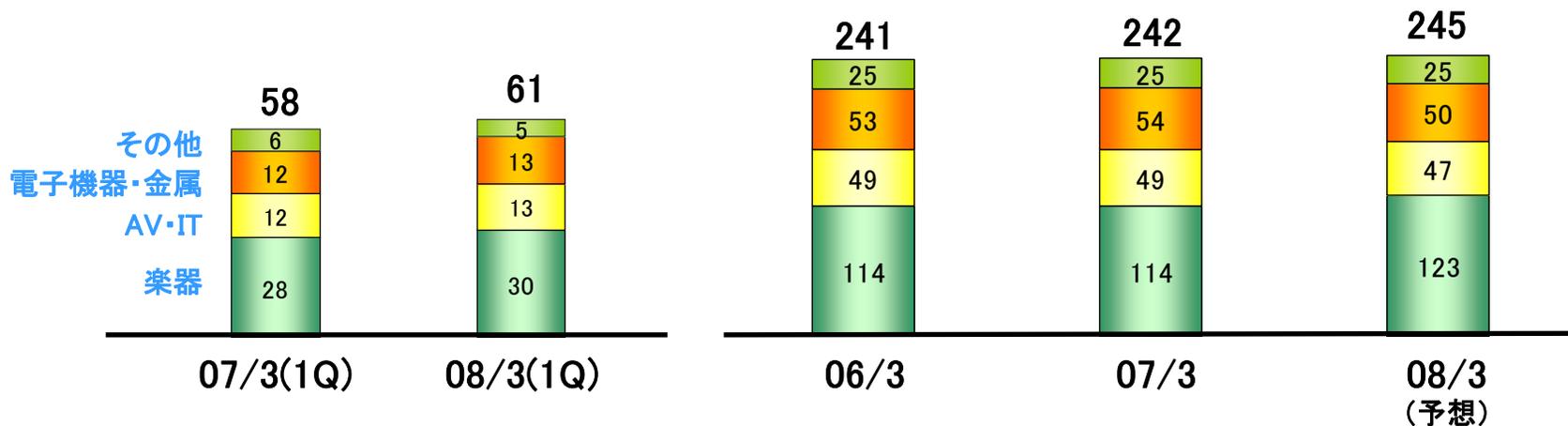
\* 1Qでの為替影響  
 対前年同期+57億円(楽器+38 AV・IT+13)  
 対前回予想+54億円(楽器+35 AV・IT+12)

# 通期設備投資・減価償却費/研究開発費

## 設備投資・減価償却費



## 研究開発費



# 予想貸借対照表



(億円)

	06/6末	07/3末	07/6末	08/3末
現預金	294	467	922	1,063
売上債権	704	766	769	732
棚卸資産	845	822	914	733
他流動資産	264	255	309	266
固定資産	3,165	3,280	3,661	3,575
<b>資産計</b>	<b>5,272</b>	<b>5,590</b>	<b>6,575</b>	<b>6,369</b>
仕入債務	422	432	463	370
借入金	301	256	307	208
リゾート預託金	272	267	187	171
他負債	998	1,121	1,578	1,627
純資産	3,279	3,514	4,040	3,993
<b>負債・純資産計</b>	<b>5,272</b>	<b>5,590</b>	<b>6,575</b>	<b>6,369</b>

# ヤマハ発動機株式の売却について



- ヤマハが保有するヤマハ発動機株式の時価総額拡大
- ヤマハ連結業績への持分法損益を通じてのヤマハ発動機業績の影響増加

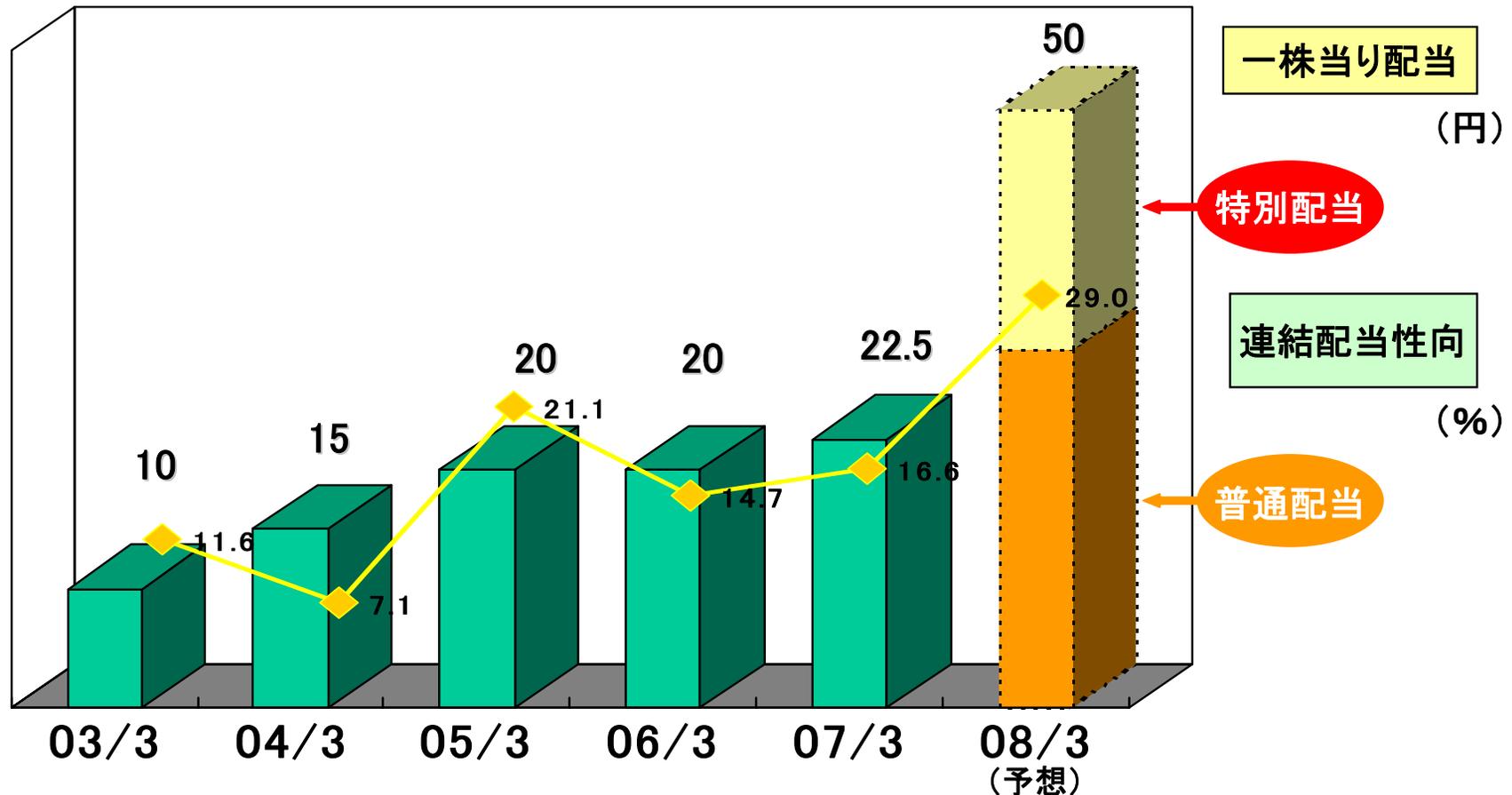


- ヤマハ発動機株式の7.8%を売却し持分法適用会社から外す
- 両社は、共通の「ヤマハ」ブランドのもとで、長期的かつ安定的な資本関係の構築を図り、一層の企業価値向上とブランド価値向上を目指す  
具体的には、ヤマハは、ヤマハ発動機株式の14.9%保有し、ヤマハ発動機はヤマハ株式の5%を保有する
- 今回の売却収入は、「The Sound Company」領域への成長投資と株主還元にあてる

# 株主還元



- 継続的かつ安定的な配当を基本に、連結配当性向40%を目標に更なる利益還元に努める
- 08/3期から、3年間で総額120億円の特別配当(毎年20円/株)と総額180億円の自社株買いを実施する





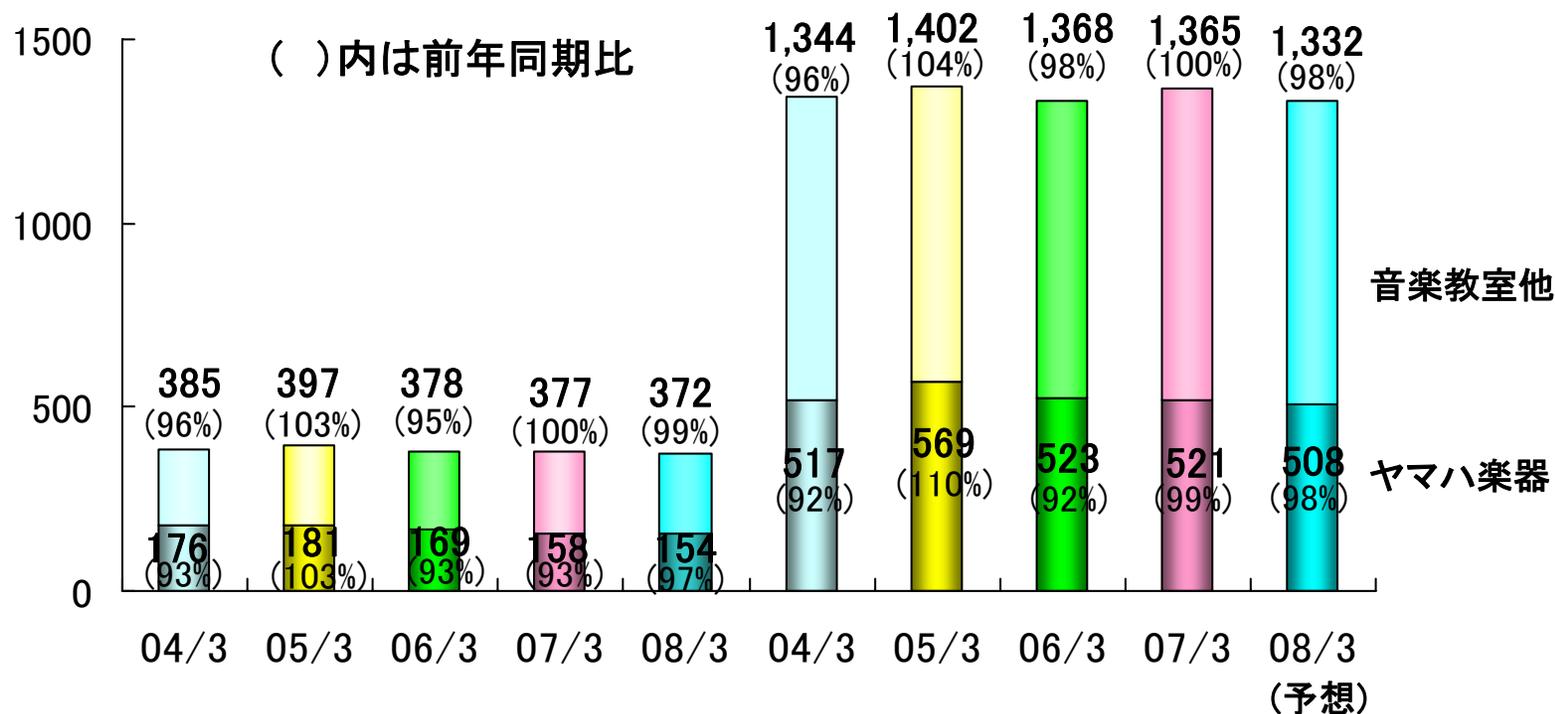
# 付属資料

# 日本市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



1Q売上高は、ほぼ前年同期並み。ピアノは、グランドピアノは新製品効果で受注が好調だが、UPが苦戦。エレクトーンは引続き減少。

(億円)



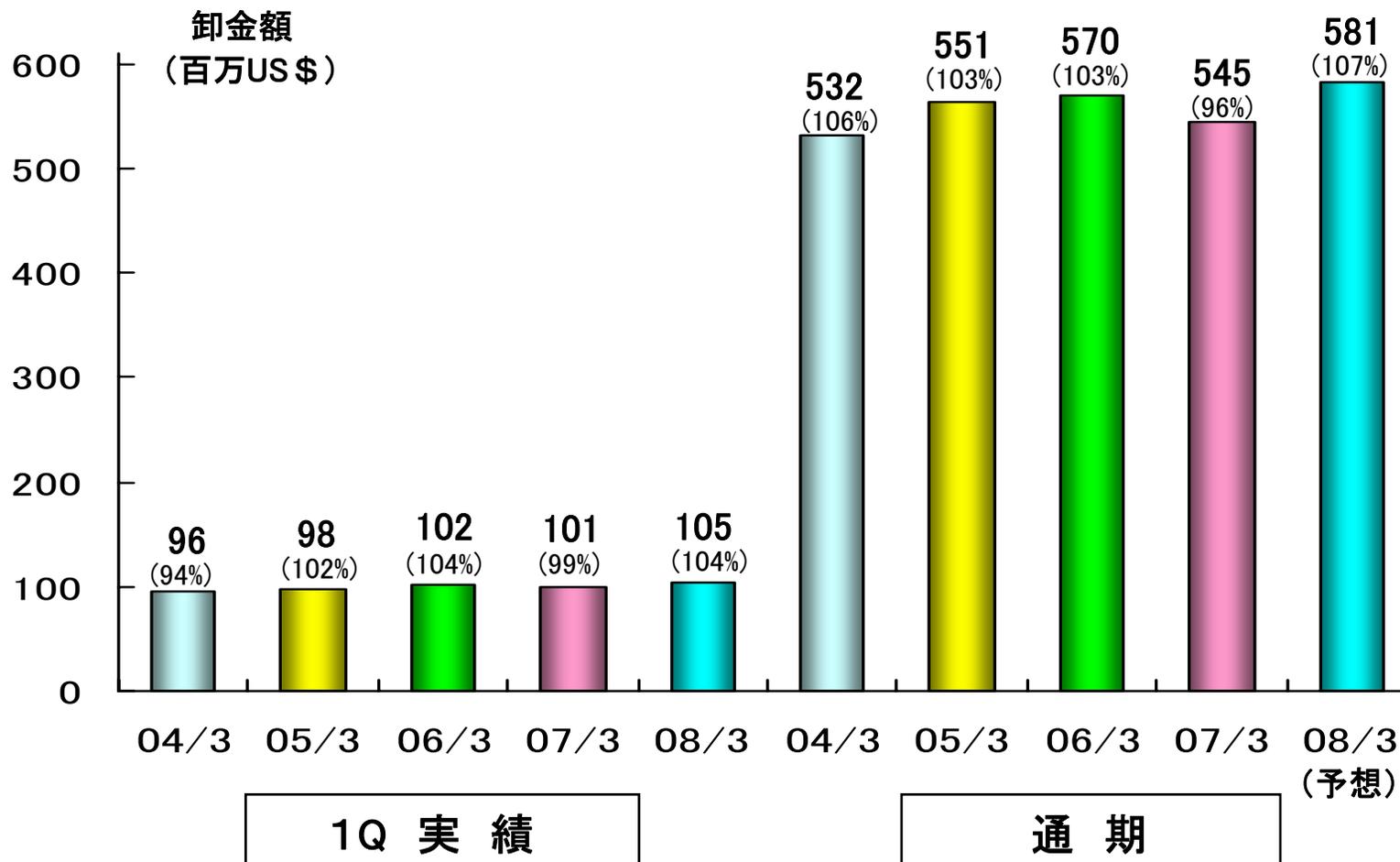
1Q実績

通期

# アメリカ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



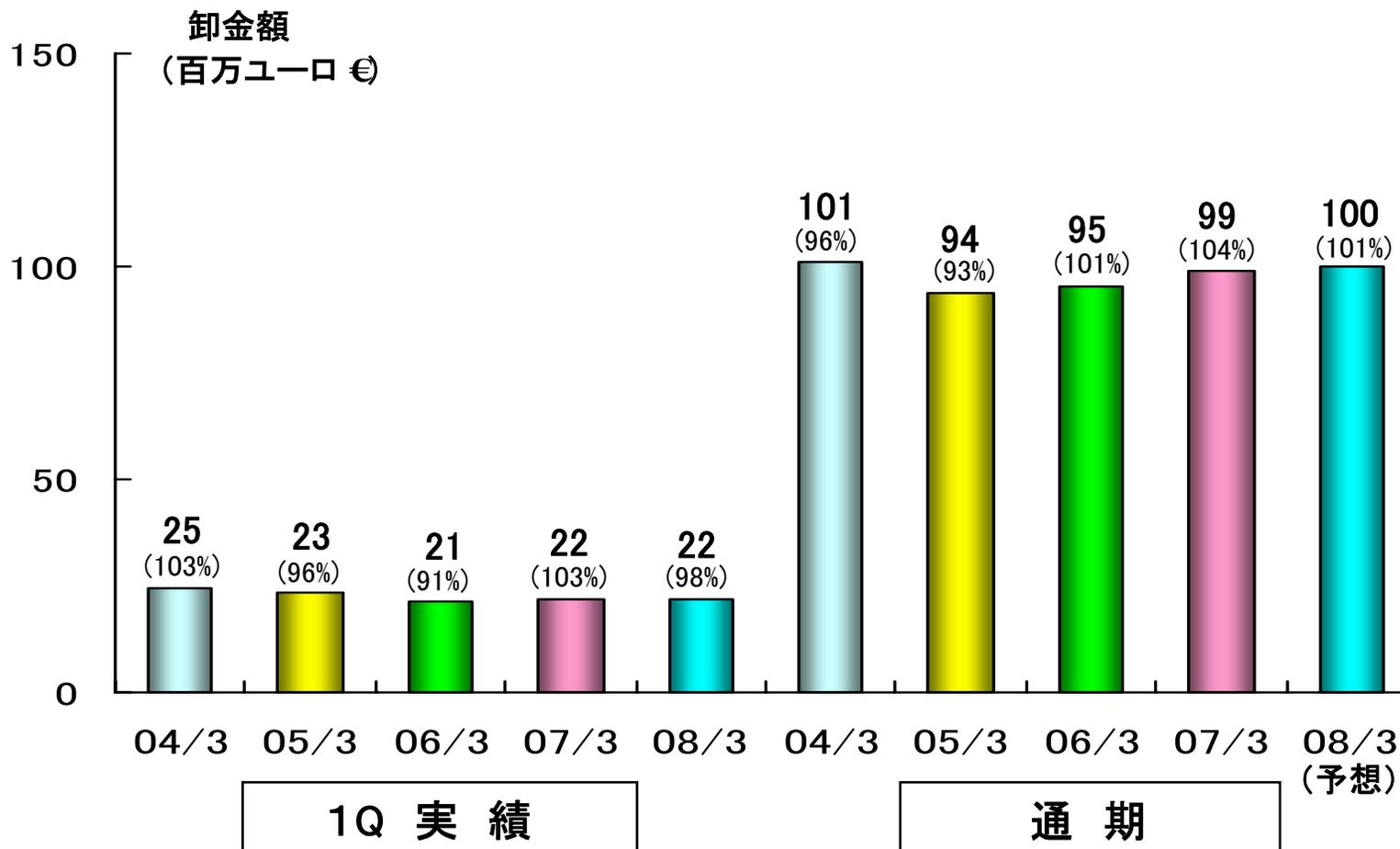
住宅着工低迷等による昨年来の需要減に歯止めがかかり、ピアノ市況に回復傾向。今後も電子ピアノ、シンセなど新商品の販売増が見込まれる他、設備用音響機器も好調を牽引。



# ドイツ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



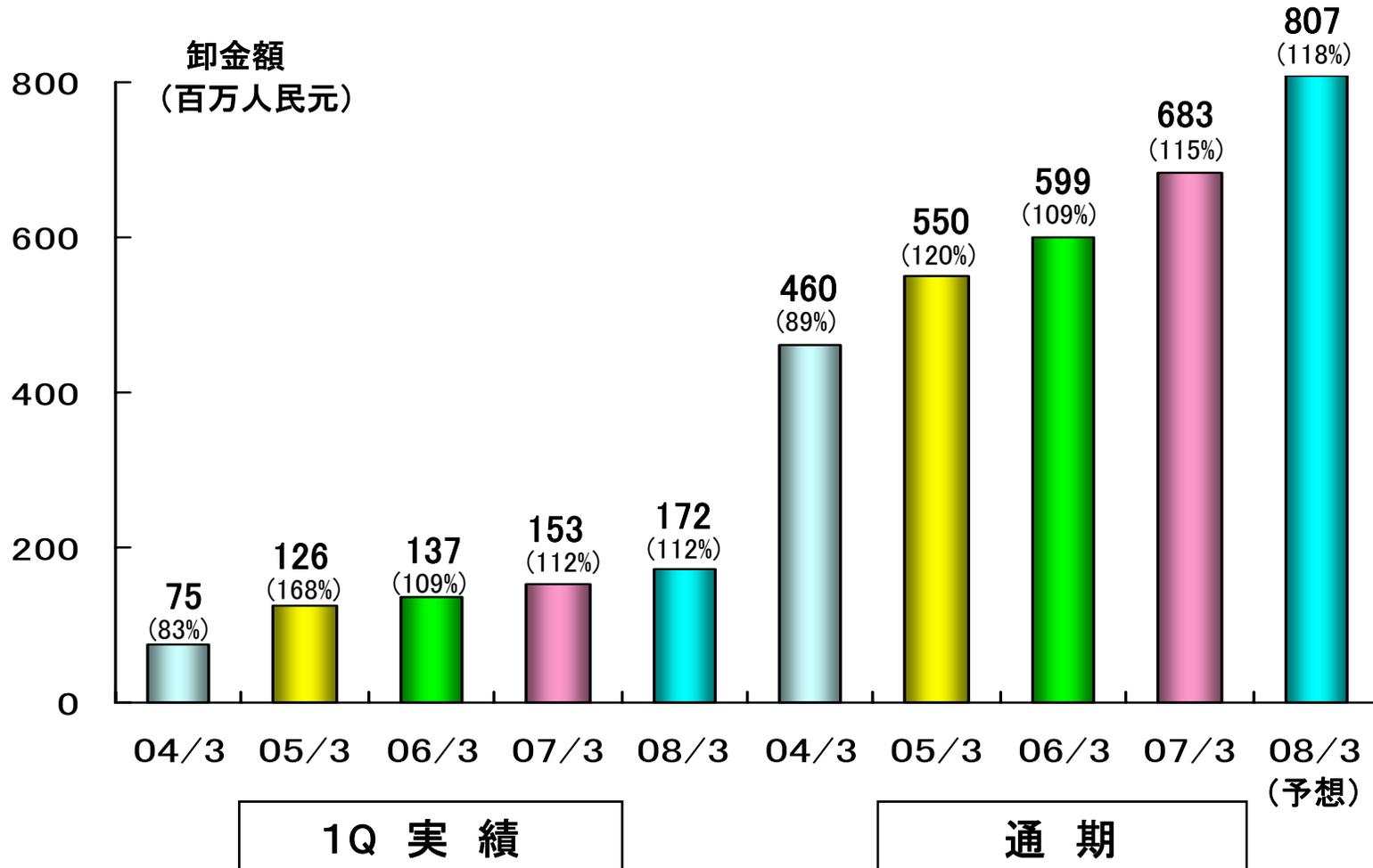
新商品の好調な受注を背景にピアノ出荷が進んだが、一時的に販売店在庫が増加している。設備用音響機器は好調を持続しており、2Q以降は電子楽器新商品の拡販により前年並の実績を見込む。



# 中国市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



ピアノは杭州製ピアノの販売伸長や日本製高額品の学校納入で好調継続。  
地方の学校への教育予算拡大でピアノ以外の管楽器や電子鍵盤楽器でも  
入札案件が増加傾向。



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。